



やってたことは ホンマもん 消費者教育



だけど視点が大事

学校は子どもが主役です。
消費者教育推進モデル校としては、
子どもが自分たちも社会の一員
であるということを意識するような
授業展開を心掛けました。
自分の地元、身近な生活に引き付け
ることで、子ども自身に消費者意識
が芽生えました。

武佐小学校長
村井孝一郎



2023武佐小Project 躍動
消費者教育推進モデル校



近江八幡市消費者教育推進における モデル校の取組2022/2023

近江八幡市立武佐小学校



2年間のモデル校の取組に関わり、先生方の消費者教育に対する意識の変容を嬉しく思いました。「消費者教育って何？」から「消費者教育ってこういうことじゃない」という会話が增え、武佐小学校には消費者教育が位置づいたんだと思います。市内の幼・保・こども園、小・中学校に広がっていくことを楽しみにしています。消費者教育は面白いので！！

消費者教育コーディネーター 甲津晃弘



授業づくりをサポートする上で、「私たち誰もが消費者である」という視点を教員が意識し、子どもたちが自分とのつながりを感じられることを大切にしてきました。授業の中で子どもも教員も、消費者と生産者、発展途上国と先進国等、色々な立場の人の思いを実感しながら、自分事として課題に向き合い、自立した消費者の礎を築くことができました。

学校教育課指導主事 木村真由美



2018～ これも消費者教育 プロジェクト

消費者教育ワークショップ 「これも消費者教育プロジェクト」

2018年度より教員ワークショップを立ち上げ多くの先生と消費者教育の実践を積み重ねてきました。2019年度には、近江八幡市の消費者教育を通して育みたい資質・能力について検討し、以下のように掲げました。

近江八幡市の消費者教育を通して育みたい 資質・能力

■ 知識及び技能

- ① 消費がもつ影響への理解
- ② 情報社会のルールや情報モラルへの理解
- ③ 商品等の安全への理解
- ④ 危険を回避する方法への理解
- ⑤ 契約等への理解

■ 思考力・判断力・表現力など

- ⑥ 消費生活情報に対して批判的に思考する力
- ⑦ 適切に意思決定をする力
- ⑧ 処理した消費生活情報を伝え合う力

■ 学びに向かう力、人間性など

- ⑨ 持続可能な消費を実践しようとする事
- ⑩ これからの生活を設計・管理しようとする事
- ⑪ 他者と協働して解決に向け行動しようとする事

消費者教育は生きる力を育むための教育とも言われています。これから生きる子どもたちが、自分で身を守り、社会や未来を変えるために主体的に参画する「自立した消費者」となるよう、学校・家庭・地域で消費者教育を進めていきたいです。

人権・市民生活課
消費生活センター
池田あゆみ



消費者教育を考えたとき
「身の回りにある商品は
どこから来ているのか
な」の問いは、
どのタイミングが
効果的な...
－ 検討会での話し合い

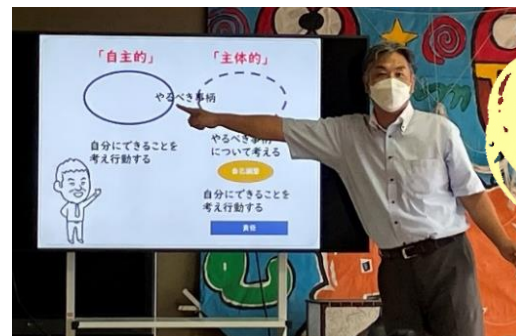
2022 モデル校 1 年目

6月 学校内でのプロジェクトチーム立ち上げと 教育委員会の支援体制



OJTと組み合わせて
体制をつくり、
指導主事もかわり
“一石二鳥”

7月 夏季校内研修(全職員) 「これも消費者教育！授業に取り入れるコツ！」 たつの市立龍野小学校教頭 石堂裕



いつもの授業で
消費者を意識して
やると、こんな感じ！
児童自らが生活とつなげ
主体的に行動します

10月・11月 研究授業と全職員での討議 3年生・5年生

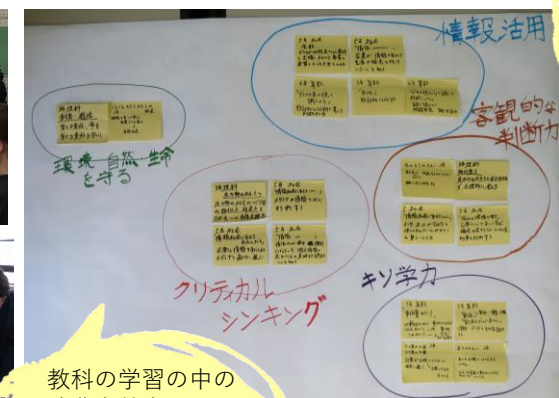


消費者を意識して
やってみた！

2023 モデル校 2 年目

これも消費者教育プロジェクト再スタート(2年任期)

5月 校内消費者教育研修(全職員) 「学校における消費者教育の実践に向けて」 消費者教育支援センター首席主任研究員 柿野成美



教科の学習の中の
消費者教育と関わる
内容をスキルで
まとめてみたら
こんな感じかな...

モデル校の取組を
これも消費者教育
プロジェクトに
引き継ぐ

武佐の授業を参考に
授業をしてみた！
幼稚園でしてることは
消費者教育とつながっ
ているんだ！

6月・10月・11月 研究授業と全職員でのグループ別討議 2年生・4年生・6年生

みんなで教材研究
“貿易ゲーム”体験中



発展途上国を
体験した子のくやしさが
問題の気づきに
つながっていた...



消費者教育コーディネーター
甲津先生からコメント

2月 消費者教育フェスタにて成果を発信



武佐小学校の
授業案発信中



2年

近野 洋平 教諭

生活科

「うごくうごくわたしのおもちゃ」

1年生が楽しく遊ぶには
どうすればよいかを
意識しよう



本時のねらい

消費者として 身に付けたい力

計画書をもとに、作ったおもちゃで遊んだり、友だちが作ったおもちゃと比べたりしながら、改良点を伝え合うことができる。

おもちゃを作るときに、相手を意識し、危険なことはないか、遊ぶ相手に合っているかを考えながら、どのようなおもちゃにするか、どんなルールにするかを選択できるようにし、くらしの中の危険や、ものの安全な使い方に気づける力を養う。

近江八幡市の消費者教育を通して育みたい資質・能力

② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑪

友だちのおもちゃの
パワーアップポイントを
見つけてメモに
記入してね



たくさんとれる！
もう少し難しい方がいいな。
どうしたらいい？



1年生が楽しく遊ぶためには、
ルールをつくるといいかも…

色がついていると
もっと楽しいよ！



友だちが書いてくれた
メモを見てみよう。
1年生により安全に
楽しく遊んでもらうにはど
うしたらよいかな？



1年生にいっぱい
楽しんでもほしいな。
このアイデアいいかも…
やってみよう。

児童の授業振り返り

- ・おもちゃの遊び方がわかるようにせつめいしたいな…。
- ・1年生が来るとうまくできるかドキドキするな…
- ・ちゃんと1年生を楽しませることができるかな。
- ・いろいろ考えて作った「おもちゃランド」は成功するかな。

1年生が来てくれたときどうだった？

- ・1年生がよこんでくれるかしんばいだった。
- ・1年生がよこんでくれてとてもうれしかった。

1年生を招待したよ！



3年生社会科の単元
「店ではたらく人」につなげる

4年

横江 瑞 教諭
社会科

「ごみの処理と活用 ～そのごみ、どこへ～」

前の授業で
収集されたごみが
どこに行くのか
勉強したね



本時のねらい

近江八幡市のごみの総排出量グラフを見て、減少していることに疑問を持ち、自分の体験やこれまでの学習をもとに、その理由を話し合うことができる。

消費者として 身に付けたい力

自分たちも、物を消費している社会の一員だという自覚を持つと共に、ごみを減らすための工夫を考え、持続可能な社会を目指した学びを自分たちの生活実践に生かすことのできる力を育てる。

近江八幡市の消費者教育を通して育みたい資質・能力

① ② ④ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪

最終処分場はいずれ一杯になるのでごみを減らす必要があるよ。
コロナの時は増えたけど全体的には減ってる...



なんで減ったのかな?
そういえば、この前勉強した5R?

ごみを減らすためには、
どんな工夫をしている
か考えてみよう!

ペットボトルは
リサイクルしてるよ!
おねえちゃんの洋服、
着られなくなったらもう...
5Rで整理すると...



ごみを減らす工夫の
アイデアを、みんなで
実践してみよう!



児童の振り返り

- ・5Rをがんばろうと思いました。なぜなら、ごみを減らすことができるからです。家に帰ってすぐに家族に伝えました。そのおかげで、家族もリユースをするようになりました。
- ・ごみを減らすための工夫をグループで相談したらたくさんありました。いろいろなお店もたくさん工夫をしていることがわかり、びっくりしました。わたしも5Rに取り組みます。

学習後、“リサイクルコーナー”を設置



みんなしっかり
分別してね!
使いたい人は
どうぞ!

6年

長澤 慎太郎 教諭 総合的な学習の時間 「よりよい社会を築くために」

一番多くかせいだ
グループが勝ち！
工夫してつくって
かせいでください！



単元のねらい

貿易のしくみから社会の課題について自らの体験を通して理解することができ、自らが感じた課題とフェアトレード等を照らし合わせながら、よりよい社会にしていけるためにできることを考えることができる。

近江八幡市の消費者教育を通して育みたい資質・能力

② ③ ④ ⑥ ⑦ ⑪

社会科 「明治の新しい 国づくり」

社会科の明治時代の学習で、日本は、文明開化によって外国との交易がさかんになったことで、豊かな国へと変わっていったことを学びました。

よりよい社会を築くためには
何が必要かな？貿易ゲーム※で
先進国と発展途上国を体感中

車、製作中...

道具を貸してくれるよう交渉中



お金もない、
紙も、道具もない、
こんなひどい！
ほかのところは一杯
持ってて
こんなに違うのは
ずるい...
やる気なくした

できがよくないやん、
これは半額でしか
買いとれんで



※ 貿易ゲームは、市消費生活センターにて貸出しています。
以下よりお問い合わせください。
TEL:0748-36-5566
mail:shohi@city.omihachman.lg.jp

マーケットに
売りにきました
検品中

これは今の世界です！
この不平等を解決するために
できることはあるかな？



途上国を体感中！！

これ、白崎教頭先生が、
市内のお店で探してきて
くれたフェアトレードの
チョコレート！



苦しい人を
助ける方法が
あるんだ

身近なお店にも、
値段が高いけど
フェアトレードの商品
が売ってたね...



国語科「意見文を書こう」
フェアトレードの資料を活用し
ながら自分の意見を意見文に
書き現す

児童の振り返り

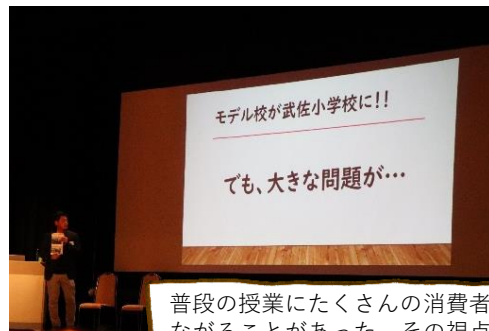
- ・このままだと世界の人が幸せにさせない。
- ・貧困をなくすためにまず簡単なことから始めようと思う。例えば、身近にいる人たちにフェアトレードについて話して知ってもらい、フェアトレード商品を買ってもらうことができればいい。時間はかなりかかるかもしれないけど、貧困をなくせたらいい。
- ・フェアトレード商品を買わない理由が「他の商品よりも値段が高いから」ということを知った。私は自分へのがんばったごほうびとしてフェアトレード商品を買うのがいいんじゃないかと思った。自分へのごほうびが、世界の子どもたちを幸せにすることができるから。
- ・買える範囲で少しずつ買って、できるだけ家族などに広めたら、少しでも苦しむ人が少なくなる。身近な人に広めることで、少しでも多くの人に知ってもらってフェアトレード商品を買う人が増えて貧困が少しずつ減って、児童労働が減り、世界の環境が少しでも変わるかなと思った。
- ・少し値段は高いけど、フェアトレード商品を買うことで、平等な世界になればと思う。



事例報告 「いつもやってることやん消費者教育 モデル校の実践」

消費者教育推進リーダー 犬丸直也 教諭

2年間の消費者教育モデル校としての取組について報告をしました。学校全体で研究体制を整え、研修の機会を持ち理解を深めながら研究グループを中心に実践を行いました。合言葉は「いつもやってることやん！」



普段の授業にたくさんの消費者教育につながるものがあつた。その視点で声掛けしたい。意識することが大事だ。研修、体制など参考になった。保護者にも伝わるとよい。アンケートより

交流会 「武佐小 消費者教育体験コーナー」

消費者教育研究グループ 近野洋平 教諭

モデル校として取り組んだ3年生社会科「わたしたちの暮らしとまちではたらく人々」で遊びに来るおばあちゃんのために豆腐を選ぼう！という模擬授業を行いました。



短い時間でポイントを絞って実践していただいたので具体的に授業がイメージできた。出前授業の参考になりたい。アンケートより

パネルディスカッション 近江八幡市立武佐小学校 校長 村井孝一郎

地元や身近な生活に引き付ける消費者教育の授業実践により、児童に消費者意識が芽生え地域に目が向くようになった様子を発信しました。連携・協働のかぎは、子どもだけでなく教員、関わる人みんながワクワクすること。地域の力があることで子どもたちが健やかに育ちます。



いずれ社会に出ていく子どもたちの学びのためには益々地域・連携が必要だと感じた。将来を担う子どもたちには自ら考え自ら行動する力をつけたい。アンケートより

白寄治 教頭先生



消費者教育の視点を持つと、教材と子どもの距離がグッと縮まりました。また、自分ごととして身の回りの出来事をとらえるようになること、こんなことを子どもたちに教えてもらいました。

長澤慎太郎 先生 ～6年生授業～

貿易についてゲームを通して学ぶ中で、世界における国々の格差について理解を深め、発展途上国の生活の様子を知り、苦しい生活を改善するために、自分たちができることはなにかを考えることができました。

上川力 教頭先生

消費者教育は、ある程度のお金を持ったりスマートフォンによる電子決済を扱うようになってから必要になってくるという認識があったが、小学1年生からも身近なものであり日常的な学習の中で機会があるごとに学ぶことが必要と感じました。

吉岡芳恵 先生



生活の様々な場面、教科の学習の中で、消費者として適切な判断ができる力を育むことができるということを感じました。ちょっとしたことから意識してやってみる、考えてみることの大切さを改めて感じました。

犬丸直也 先生

消費者教育って何なん？から始まったこの研究。1年目で「これまでいつもやってることやん！」という気づきが生まれました。2年目では「私たちがこれまで実践してきたことは消費者教育だった！」と確信できました。

近野洋平 先生 ～2年生授業～

1年生で心に残ったおもちゃランド。今度は生産者として1年生を招待しました。「壊れないかな？」「成功するかな？」と相手意識を持つことで、消費者教育として学びが深まりました。



武佐小学校 やったことはホンマもん消費者教育



坂本潤 先生 ～理科の授業～

生き物の飼育、植物や野菜の栽培を通じて、生命の大切さ、生命をいただくことのありがたさを子どもたちは学びました。生命を預かり育てる活動を通じて、生命を預かり、育てることの責任を実感することができました。

石垣のぞみ 先生 ～さくらの児童にとって～

校区で栽培されているイチゴに触れることが、その味覚や「匂」、生育・生産のようす、生産者の思い、加工・活用の方法などに気づくことにつながりました。何かに触れるきっかけや深められるしかけを工夫することが大切だと感じています。

松尾貴久 先生 ～3年生授業～

お店ではたらく人びとの学習を通して、お店ではたらく人は買い物をしやすいようにさまざまな工夫をしていることを学びました。商品の並べ方や割引やセールについてなどさまざまな視点から工夫に気づくことができました。

横江瑞 先生 ～4年生授業～

環境問題を通して消費者教育を学びました。自分たちの住む町のごみの量を知って驚く子どもたち。「自分たちもごみを出している一人なんだ」という気付きから、ごみを減らすにはどうしたらいいかと考えました。無駄なごみを出さないよう、学級にリサイクルコーナーを作りました。

薦本清美 先生 ～3年生授業～

社会科、総合的な学習の時間では、武佐の町探検を通して、土地の使い方を学習しました。2年生では、食肉工場の方と出会い、3年生では、牛舎の見学に行き、経営者の方のお話を聞くことができました。さらに、お店の見学をして、物の流通を学習することができました。

山本利恵子 先生～5年生授業～

毎年学習する【牛の命をつなぐ職人技】。牛の命を大切につないでいく職人さんたちの技術や思いに触れ、かっこいいと思った子どもたち。消費する側の自分たちの責任について今まで以上に深く考えることができました。



乾美奈子 先生 ～3年生授業～

たくさんのゲストティーチャーをお招きし、武佐や近江八幡には様々な特産品があることを教えていただきました。生産者の方の思いを知ること、地域の特産品を誇りに思い、大切にしていきたいと考えることができました。

河瀬朗子 先生 ～算数の授業～

「どっちの商品がお得かな。」と具体的な買い物の場面から、楽しく考えることができました。かしい消費者になるために、算数科での学びを自分の生活につなげ、多面的に物事を見る力がつくといいなと感じました。

山登由希子 先生 ～1年生授業～

植物を育てたり、栽培したりすることで、「葉っぱがだんだん大きくなってきたよ。」など、変化や成長の思いをたくさん伝え合うことができました。また、自分がお世話した植物が立派に成長したことに喜びを感じられる良い経験ができました。

